

一人ひとりの「知」をしっかりと見守め 受験に必要な「力」をきめ細かく育てる

2006年開設の大学進学塾、グノーブル。開設からまだ日が浅いにもかかわらず、2008年卒業のⅡ期生232名中、東京大学50名、国立大・慶大28名など、有名大学の合格実績がめざましい。注目の進学塾です。「夢を叶えるための能力を伸ばす」「生き生きとした授業空間」「一人ひとりとつながる」を掲げるグノーブルではどのような指導を行っているのか。代表である中山伸幸先生にお話を伺いました。

子どもの成長を見据え 真に必要な知の力を育む

東京大学をはじめ難関大学への合格実績が順調に伸びていますね。まずはグノーブルとはどのような塾なのか、お聞かせください。

中山 合格実績が伸びているのはたいへんうれしいことです。しかし、わたしたちは大学合格だけをめざしているわけではありません。確かに、わたしたちは生徒たちを志望校に合格させるために全力を尽くしています。しかし、大学に受かることだけを目標にした、単なる知識の詰め込みや、子どもたちを圧倒するためにやたらむずかしい問題を課するような指導・授業は行っていません。

かつてのように、有名大学に合格し、一流企業に入りさえすれば、ある程度安定した生活が約束されるという時代であれば、そういう指導・授業でもいいかもしれません。しかし、現在では、大企業といえども合併や倒産が当たり前となつていきます。また、人類が抱える難題に直面せざるを得

ない現在の世の中を見ればわかるように、大切なのは大学に合格することではなく、大学入学後に自分の力をどう伸ばしていくかではないかと、わたしたちは考えているのです。

東京大学をめざす場合も、合格して終わりではありません。東大合格を究極の目標にしていると、目標達



中山伸幸先生

成後に燃え尽きてしまうことにもなりかねません。じつは、そういう学生が少なくないという話も耳にしています。重要なのは入学してからいかに活躍できるか、いかに生き生きと勉強を進められるかです。わたしたちは、生徒たちが将来を切り開いていくために必

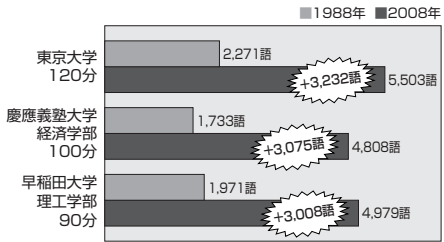
要な知力を身に付け、大学入学後も活躍できるような授業を心がけています。

時代の要請に応えるべく 大学入試英語も激変している

具体的にはどんな授業を展開なさっているのでしょうか。

中山 わたしが担当している英語で説明しましょう。まず、国立大学も私立大学も、社会状況の変化に伴い、英語の出題傾向が変わってきています。たとえば、センター試験が行われるようになった1990年、英語の問題で使われたワード数は2393語でした。ところが2006年には3262語になり、2008年には4130語と激増しました。

■入試英語において処理すべきワード数の変化



*1988年の東京大学についてはリスニングテストが行われた文系用試験をカウント。また、早稲田大学については旧・理工学部と、現在の基幹理工・創造理工、先進理工の3学部の試験(問題は共通)を比較している。(グノーブル・中山先生調べ)

各大学の試験でも増加傾向は著しいものがあります(図参照)。

かつての問題では、英語の運用能力よりも、語彙の暗記量や、入試以外では役立ちそうにない文法問題のパターン演習量が問われていました。しかし、現在では、高速かつ正確に英文を読みこなし、日本語を介さずに情報や知識を吸収できる力、明快な英語での確に伝達できる力が問われています。端的にいえば、「英語が使えるかどうか」が試されているのです。

大学進学までに、どのような能力を身に付けておく必要があるのでしょうか。

中山 言語学には、日常言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills) 認知学習言語能力

(CALP: Cognitive/Academic Language Proficiency) という概念分けがあります。実用的な英語という、まずはペラペラ話せることを思い浮かべがちですが、じつは、日常言語能力のみを高めても、学問としては通用しません。国語にたとえるなら、仮に学校で国語の授業をまったく受けなくとも、おそらく日常会話には困らないでしょう。けれどもその日本語力では学問を進めていくことは困難です。それと同じです。

流暢な会話力は大切です。しかし、有名大学を受験しようとしている子どもたちは、海外で買える物ができるようになることをめざしているわけではないはずです。わたしは、抽象的な思考を行うのに必要な認知学習言語能力を向上させることが必要だと感じています。

認知学習言語能力は奥が深く、積み上げていくのに長い時間がかかります。言葉と思考は一体になっているのですから当然です。また、意識して鍛えないと身に付きにくいものでもあります。

これまでかなりの人数の帰国生を指導した経験がわたしたちにはありますが、流暢に話せるにもかかわらず、じつは学習内容をほとんど理解できていない、ということも珍しく

ないので。その点からしても、「英語を使って、深く高度な思考が行える力の育成」がわたしたちの使命だと痛感しています。

大学受験においても、またTOEFLでも、高速で言語処理ができ、さらに、きちんと正しく思考できる力が問われるのです。

学問を進めるために不可欠な 基礎力が抜け落ちている生徒が多い

そうしたなかで、最近の中学生や高校生をご覧になって、どのようなお感じになりますか。

中山 高校2年生くらいになって、グノーブルにやってくる人も少なくありません。そろそろ本気になって勉強しようかと考えるのでしょうか。わたしも、そうした人たちに季節講習や面談で会うのですが、基礎学力が

大きく抜け落ちていることに驚くことがたびたびあります。多くは、狭き門をくぐり抜けて有名中学や高校に通っている生徒たちです。もともと勉強嫌いなわけでも理解力が低いわけでもないのです。その生徒たちが、どうしてこれほど基礎学力が抜け落ちているのかと悲しい気持ちにさせられることがあります。

中学・高校時代に土台となるべき基礎を築いておかなければ、大学に入っても、その上に大きな「建物」が建つはずがありません。その生徒にとっては何となく重大なことなのです。

わたしたちの経験上、基礎的な知識が身に付いていないお子さんは、自主性を重んずる校風の学校に多いように感じています。また、先取りをしている塾や、とにかく問題を解かせる塾にお通いだつたお子さんは根本の理解が欠けていることがあります。そもそも勉強が「作業」になつていて、深く考えることを楽しめないという深刻な状況になっている場合もあります。

良い指導者がいてこそ 質の高い学習効果が得られる

グノーブルではどのような授業を心がけているのか教えてください。

中山 わたしは、良い塾には三つの



グノーブルを体験できる！
新中学1年生のための「スタートダッシュ講座」

対象：中高一貫校の新中学1年生
科目：英語・数学(各2時間×4日間)
日程：Sターム(英・数) 2/28(土)・3/1(日)・7(土)・8(日)
13:00~15:00、または15:30~17:30
Aターム(英語のみ) 3/14(土)~17(火) 17:00~19:00
Bターム(数学のみ) 3/21(土)~24(火) 15:30~17:30

受講料：1科目 16,000円(税込)
英語・数学ともに定員制(1クラス15名程度)で、受講テストはありません

講座説明会

参加無料 場所：新宿本館(予約不要)

2/6(金)、2/8(日)、2/13(金)、2/14(土)
10:30~(2/8は10:30~、14:00~の2回)

多くの発明や発見をした偉人と呼ばれる人たちは、研究において悩み抜き、考え抜いたはず。なぜ彼らが寝食も忘れるほどに熱中して考えたのか。それは考えることが楽しかったからに違いありません。確かに学習する内容によっては理解する

決して小さくはありません。塾に通い出してからすっかりやる気を失ってしまった」というお話を聞きました。勉強とは本来、楽しいものであるはず。生徒たちにそれをいかに教えられるか、勉強に楽しみや喜びを見いだし、熱中させることができるか。指導者の役割は決して小さくはありません。

印象深くなる工夫をします。毎年毎年、生徒たちは替わるので、課題や問題も変わります。当然、クラスによっても変わります。一人ひとりに目を注ぎながら、教材・授業の準備をすることを怠りません。また、何十枚も生徒たちの英作文の添削をするのは楽な作業ではありませんが、それによって一人ひとりの変化が手に取るようにわかるのです。あんな作文を書いていた生徒が、よくぞここまで書けるようになったと思うと、涙が出るほどうれいものです。逆に、授業をどのように工

夫すればこの生徒は伸びるだろうかと考えることも、とてもやりがいがあります。心の動きが伴えば自然と力は伸びていく。生徒たちが意欲的に勉強に取り組むように、工夫されていることはあります。中山 先日、説明会に来られた、ある有名女子校に通うお子さんがいるお母さんから「小学校のときに通っていた塾ではとても楽しそうに勉強していたのに、中学に入って新しい塾に通い出してからすっかりやる気を失ってしまった」というお話を聞きました。勉強とは本来、楽しいものであるはず。生徒たちにそれをいかに教えられるか、勉強に楽しみや喜びを見いだし、熱中させることができるか。指導者の役割は決して小さくはありません。

的ైన受験対策で合格実績を伸ばしながらも、大学受験の先を見据え、一人ひとりに目を向けた指導を行う。卒業生の声をお聞きして、多くの方がしつかりと将来の目標を持つておられることや、生徒さんと先生たちとの距離が近いと語っておられる理由がよくわかりました。本日はありがとうございます。

のがむずかしいものもありますが、考えることは無味乾燥な行為ではありません。ジリジリしたり、イライラしたり、ワクワクしたり、ドキドキしたりと、心も総動員して取り組むものです。そうやって、ときには、服を着るのを忘れてお風呂から街に飛び出したアルキメデスのような喜びも感じられるものです。ところが、いきなり公式を暗記させられたり、反復練習をすれば勉強が得意になるからと言って、むやみに多くの問題演習をさせられたりすると、学ぶ側はじつにつまらないと感じるのです。確かに反復練習が必要な場合もあります。ただし、反復練習にもやり方があるのです。「勉強が楽しい、課題が楽しい、この先生の授業を受けたい」と生徒たちに思ってもらえること。わたしたちがめざし、心がけているのはそういう授業です。

中山「生徒たち一人ひとりに目を向ける」。それがわたしたちグノーブルの方針であり、特長の一つです。わたしの授業でいえば、最初にプリントを1枚解いてもらいます。高校2年生なら主に英作文、高校3年生なら英文の要約を書いてもらい、それを集めてすぐに添削をします。それで、一人ひとりの生徒のすばらし

プロフィール
GNOBLE ~知の力を活かせる人に~
所在地
〈新宿本館〉
〒151-0053 渋谷区代々木2-8-3新館GSビル1F
TEL: 03-5371-5487
FAX: 03-5371-5488
受付時間: 月~金曜日15:30~21:00
土曜日14:00~21:00 / 日曜日休み
http://www.gnable.co.jp/
●交通アクセス
JR「新宿」駅サザンテラス口 徒歩1分 (南口 徒歩2分)
京王新線・都営新宿線・都営大江戸線 出口2 徒歩0分
JR「代々木」駅北口 徒歩5分



グノーブル独自のメソッドが1冊の本に!!
★一読すれば英文のとらえ方が変わる。
★じっくり読めば、高速度かつ正確に英語を処理する実力が付く。
★大学受験のみならず、TOEIC対策にも最適。
グノーブル新宿本館受付でも絶賛販売中!
■ 大学受験 グノーブル代表 中山伸幸=著
■ PHP研究所=刊 ■ 定価=1,575円



グノーブルは、個別指導でないにもかかわらず、添削指導をしているとお伺いしました。中山「生徒たち一人ひとりに目を向ける」。それがわたしたちグノーブルの方針であり、特長の一つです。わたしの授業でいえば、最初にプリントを1枚解いてもらいます。高校2年生なら主に英作文、高校3年生なら英文の要約を書いてもらい、それを集めてすぐに添削をします。それで、一人ひとりの生徒のすばらし

点や、これからの課題などを知ることができず。こうしたことを把握することによって初めて、授業ではどんな解説をして、生徒たちにどんなアドバイスをすればよいかかわかり、さらには用意すべき問題や課題が決まられます。授業の最後に「これを解いたら帰っていいよ」と、ゲームのように問題を解かせたりするのも、楽しく勉強してほしいという思いのほかに、各人の答案を見せてもらいたいという面があります。そうやって、つねに生徒たち一人ひとりに目を向けるような心がけています。生徒たちの「いま」の姿を毎週毎週見て、問題や課題を用意するわけですから、授業で「この問題を解いてみよう」と板書する問題も射たものになります。また、生徒たちが見えていけば無駄を省けますから、自然に授業はスピーディーになります。一人ひとりに目を向けて指導をするためには教材の準備がたいへんだと思います。中山 わたしたちは教材も自分たちで作っています。生徒たちが興味を持ち、夢中になって考えられる問題を用意しています。頭を悩ませる問題の後は「そうか!」と生徒に納得してもらえ

条件があると思っています。まずは「良い先生がいる」こと、次に「良い教材がある」こと、そして「良い仲間やライバルがいる」こと。なかでも、揺るぎない指導理念と的確な指導法を持った「良い先生がいる」とは、生徒たちにとって非常に重要です。先に述べたように、わたしたちは「東京大学に合格できる力を育てよう」とは考えていますが、「東京大学に合格しさえすればいい」とは考えていません。生徒たちが、喜びが味わえるものとして勉強を捉え、勉強というものはやるに値するものだとして先に進んでいく。そのような指導、授業を心がけています。志望校に受かって満足するのではなく、入学してから新しいものにチャレンジしていくために必要な知力を身に付けてもらいたいです。

いうコーチがいます。平井さんは、選手としては目立った活躍をしていません。北島選手が、「オリンピックにも出ていない人じゃないか」と、平井さんを侮り、助言を無視して自分の思ったとおりに練習をしていたなら、現在の彼はなかつたように思います。将棋の世界でも、一流と呼ばれる人たちは、若いときにひたすら定跡を学んでいます。その素直さ、ひたむきさが大器の土台を形成すると思われれます。ただし、素直にコツコツやれば、それだけでいいというものではありません。ただ漫然と問題をこなしていても、理解は深まらず、得点力は付きません。目的意識を持つことと、大きな視点に立って適切な指導をしてくれるコーチ(先生)に見えてもらわなければならない。そして、そ

の先生は、生徒たちが「この先生のもとで勉強したい」と思える存在でなければなりません。また、生徒たちが主体的に取り組めるような環境も大切です。集団授業の良さを生かした教室の空気作りはわたしたちの大事な仕事です。先生や保護者の方に言われてやることは受け身ですし、この年代の生徒たちはそういうことを素直にやる気になりません。良い仲間、良いライバルが集まる教室の空気の中で「自分もやろう」と思えたり、気付いたら夢中になっていたりすることが能動的・主体的な姿勢につながります。そういう空気を作ることに、わたしたちは気を配っています。

グノーブルは、個別指導でないにもかかわらず、添削指導をしているとお伺いしました。中山「生徒たち一人ひとりに目を向ける」。それがわたしたちグノーブルの方針であり、特長の一つです。わたしの授業でいえば、最初にプリントを1枚解いてもらいます。高校2年生なら主に英作文、高校3年生なら英文の要約を書いてもらい、それを集めてすぐに添削をします。それで、一人ひとりの生徒のすばらし